

ユニバーシアード
ブルガリア

紺野大健闘！

ニッポンの次の目標は
ショート上位進出に

紺野がやった。

トップ比 109%で予選を
楽々通過。日本のユニバーシ
アードへの挑戦は、新しい段
階に入った。

大戦果！ ショート予選

ブルガリアで行われたユニバーシ
アード (WUOC) のショート競技で日本勢が
活躍した。今まで日本チームがユニバ
ーシアードに参加してから最高の 3 名
の予選通過者を送り出した。

男子は紺野が予選通過。女子は塩田、
田島が予選を通過。内容的にも、紺野
(予選 12 位)、塩田 (予選 11 位) は十
分余裕を持って予選を通過。特に紺野
はトップタイム比 109% (トップと 2
分 30 秒差) と、特筆すべき結果を残し
た。また、田島 (予選 16 位) が現役学
生で予選通過し、2001 年秋のインカレ
ショート大会優勝者の意地を見せた。

ユニバーシアード直前にブルガリア
国内で日本チームのトレーニングキャ
ンプが行われたが、この時のテレイン
とショート競技予選のテレインとは比
較的似ており、日本チームにとってテ
レインに対応しやすかった。

男子予選 1 組

1	Gueorgiou	26:19
16	Bruns, Eike	31:42 (決勝 A 進出)
20	加藤弘之	33:05
25	西尾信真	41:07

男子予選 2 組

1	Lauenstein	26:31
16	Schneider	31:45 (決勝 A 進出)
27	新宅有太	45:50
29	小泉成行	48:07

男子予選 3 組

1	Gavrylenko	27:14
12	紺野俊介	29:42 (決勝 A 進出)
16	Fischer	31:21 (決勝 A 進出)
21	高橋 善徳	34:49

女子予選 1 組

1	Berglund	25:46
11	塩田美佐	30:25 (決勝 A 進出)
16	Austin	34:45 (決勝 A 進出)
20	番場洋子	43:34

女子予選 2 組

1	Fialova, Pavla	26:44
16	田島聖子	35:40 (決勝 A 進出)
23	黒河幸子	56:47



▲ リレーの最終コントロール
TVクルーに撮影される紺野

女子予選 3 組

1	Wootton	27:46
16	Ikaheimonen	37:18 (決勝 A 進出)
23	宮内佐季子	47:06

ショート決勝に課題

世界に挑戦を続ける日本選手たちに
とって、当面の目標となっているのは
ショート競技の予選通過である。これ
を勝ち抜くことが現実のものとなると、
今度はその先の目標が見えにくくなる
のも事実。その影響からか、ショート
決勝は紺野が 46 位、塩田が 40 位、田
島が 47 位 (48 人中)。予選通過が現実
となった今、決勝を見据えた競技力が
求められるようになってきた。

男子決勝 A

紺野	55:04
----	-------

女子決勝 A

塩田	47:33
田島	57:51

男子決勝 B

加藤	36:00
小泉	41:37
高橋	47:05
西尾	51:45
新宅	76:40

女子決勝 B

番場	37:17
黒河	56:39
宮内	62:18

厳しかったクラシック

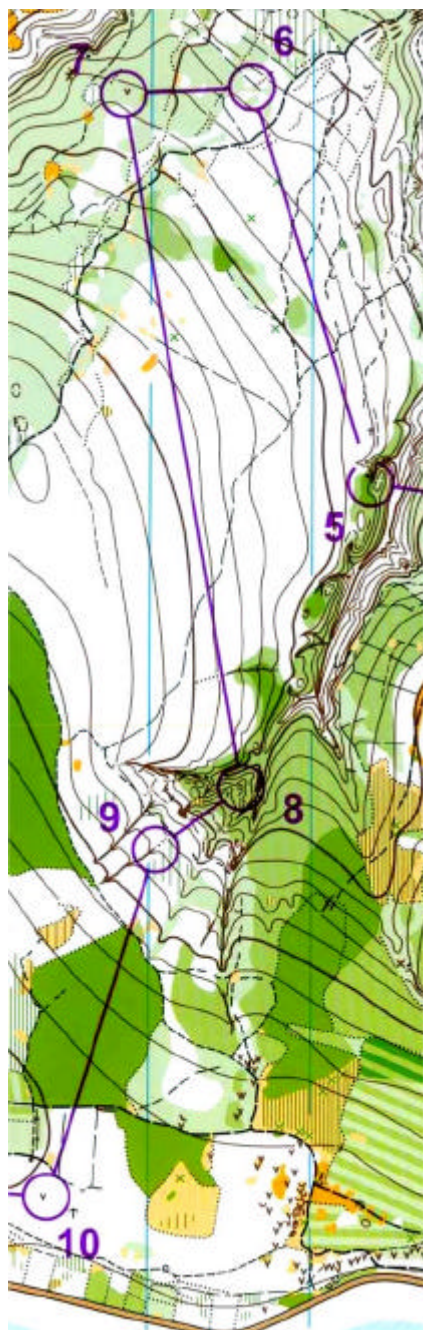
クラシック競技で日本最高位の結果
を残したのは、男子ではやはり紺野。
トップと 20 分差タイム比 123% の 47 位。
女子では番場 (41 位) がトップと 19
分差タイム比 129% の 41 位だった。タフ
なコース設定となっており他の選手は
さらに苦しんだ様子である。

ME 14000m 280m

1	Emil Wingstedt	SWE	1:26:59
2	Ilkka Ieppavuori	FIN	1:27:37
3	Oliver Johson	GBR	1:28:23
47	紺野	JPN	1:47:06
64	加藤	JPN	1:58:42
69	小泉	JPN	2:07:49
	西尾	JPN	P
	高橋	JPN	P

WE 9250m 185m

1	Martina Rakayova	SVK	1:04:34
2	Bodil Holmstrom	FIN	1:09:12
3	Marte Balchen	NOR	1:09:13
41	番場	JPN	1:23:20
57	塩田	JPN	1:31:33
63	宮内	JPN	1:36:15
69	田島	JPN	1:54:00
70	黒河	JPN	1:58:07



▲紺野が快走を見せた
ショート予選のコース
直進の速さと細かさが問われる

もっと厳しかったリレー

最終日のリレー競技で日本男子は 15 か国中 15 位の最下位。日本女子は失格（塩田と田島がペナ）。日本女子のタイムは 13 か国中 12 位。まだまだ世界の壁は高く厳しい。大会最終日に行われたリレー競技は選手にとっても体力的に厳しかったようだ。

クラシックやリレー競技で使用されたテレインは、オープンとヤブのテレインで、日本チームの各選手ともヤブの中での走りに苦しんだようだ。

男子

1	France	3:11:49
2	Poland	3:17:56
3	Finland	3:20:02
4	Switzerland	3:21:29
5	Germany	3:22:38
6	Sweden	3:22:57
7	Czech	3:23:46
8	Russia	3:30:10
9	Great Britain	3:34:05
10	Italy	3:34:39
11	Bulgaria	3:39:21
12	Austria	4:07:28
13	Ukraine	4:08:46
14	Hungary	4:14:28
15	Japan	4:20:29
	紺野俊介	1:19:23
	加藤弘之	0:56:49
	高橋善徳	1:04:43
	小泉成行	0:59:34

女子

1	Great Britain	3:14:28
2	Sweden	3:15:48
3	Czech	3:19:26
4	Germany	3:20:02
5	Finland	3:33:47
6	Russia	3:34:32
7	Italy	3:34:53
8	Switzerland	4:06:26
9	Austria	4:11:53
10	Hungary	4:15:15
11	Bulgaria	4:28:26
12	Romania	4:46:54
	Japan	(4:42:05)
	塩田美佐	DSQ(1:13:01)
	番場洋子	1:09:35
	田島聖子	DSQ(1:05:44)
	宮内佐季子	1:13:45



▲リレーで優勝したフランスチーム

2005 年に向かって

今回、ショート予選で具体的な戦果を残せたことによって、日本チームは「参加することに意義がある」段階から、「どのようにしたら世界で活躍できるか」という段階に入った。

今回ユニバーシアードを走った選手にとって2005年愛知での世界選手権はもう目の前にあると言ってもいい。あと3年でどれほどレベルアップして、地元の舞台で活躍してくれるのか楽しみである。



▲ショート決勝の最終コントロール
海水浴客の見守る中、ラストパンチを行う塩田

ユニバーシアード日記

オフィシャル尾上秀雄の日記より

8月21日 クラシック競技

1:15,000、2.5m コンターでアップが2%というハンガリータイプの山？だった。やぶを切るか迂回するかを選択、やぶを切りながらいかに方向精度を維持するか、砂地や石地やオープンはいかに早く駆け抜けるか、などがポイントか。

そうした中で男子では紺野、女子では番場がうまくまとめて、それぞれトップ3人平均との比では122~123%を記録。今後の後輩たちへの目標となるべきタイムだ。

西尾はラス前で隣接女子ポストに引っかけたペナ、高橋は遅いスタートで給水が受けられずに途中棄権と残念な結果になる。ラップ分析をした結果ではやはりミス率をせめて10%程度に抑えることが必要ようだ。



▲ラストスパートする宮内

8月22日 ショート競技予選

いよいよショート予選の日だ。日本選手の誰もがこの予選を通過してAファイナルに進出することを一つの目標にしている。各ヒートの16位以内までが通過ということで25分のウイニングの120~125%程度(30分台前半)がボーダーになりそうだ。

まずは前日好タイムを出して好調の番場に期待が掛かる。トップスタートなのでトップゴールも夢ではないと見守るがなかなか姿を見せない。と、加藤が先にゴールする。33分なので通過はやや厳しいか。その後は小泉をはじめみな40分オーバーと討ち死にしてしまった。悔しそうな顔が並ぶ。田島、高橋も35分程度でこれまた厳しい状況。

あと可能性のあるのは遅いスタートの塩田と紺野だけだと見守る中、程なく塩田が姿を見せる。時計を見るとまだ30分だ！ やったぞと思いながら最

後の声援を送る。そのままゴールレーン横を走ってリザルトボード前に。見るとどのヒートでも10位程度なのでまず通過確定のようだ。早速塩田におめでとうの声を掛ける。喜びにわくみんなの目に今度は紺野の姿が写った。早い！ 30分を切りそうだ！ 結局トップ比109%という今までにない記録であった。

そして最終的には田島も16位で下げ止まり嬉しい通過となった。3人も通過者を出した日本チームにオーストリアの選手が驚きを持っておめでとうを言いに来た。

8月23日 ショート競技決勝

ショートの予選通過を目標にして来た選手にとって、決勝は気持ちの持って行き方がむずかしい。一方Bファイナル出場選手の方は、予選の失敗から気持ちを切り替えて再度挑戦できるので比較的走りやすいはずだ。

決勝のゴールは海岸ということで3年前のJWOCが思い出される。前日のオフィシャルミーティングで最終コントロールはお楽しみということだったので、海の中にビーチパラソルでも立ててあるのかと思いきや、冴えない木切れが波打ち際に立ててあった。それでも海の中に膝まで入ってカメラを構える人など、観客には面白いセッティングになっていた。

前日すばらしい走りをした紺野と塩田は共に崩れてしまい、結局40分を切ったのはBファイナルを走った加藤、番場だけという厳しい結果になってしまった。しかしこの2人は前日の悔しさを払拭する良い走りでの次の日のリレーに気持ちをつないだ。そしてそれに次ぐタイムの41分で走った小泉が男子リレーの4人目に決まった。

8月24日 リレー競技

リレーの走順は以下の通り。

	1走	2走	3走	4走
男子	紺野	→加藤	→高橋	→小泉
女子	塩田	→番場	→田島	→宮内
男子 MIX	西尾	→新宅	→TUR	→TUR
女子 MIX	CZE	→FRA	→HUN	→黒河

会場はオープン地域で、チェンジオーバーエリアから50mの高さの正面の山の上までが観戦エリアとして開放され、そこに上がると遥か遠くまで続く壮大なオープンエリアと林のエリアが一望できるというものだ。

選手も一緒にその山に登ってコースの回し方を想像するが、やはり1走の

走りを一通り見てみないとはいっきりしたことは分らない。やがて選手がビジュアルを通過して全容が分かる。ビジュアル後に一度荒涼としたオープンを横切って、遠くのオープンの山の裏を回り、再度オープンを戻って最後の林に入るようだ。



▲女子リレーのスタート

紺野がなかなか戻ってこないと見る中、西尾が先に現れる。結局その西尾がゴールした頃にやっと紺野がビジュアルに現れるという展開になってしまった。最初の10%が緑の地域だという情報だったがどうやらそこで飛んでしまったらしい。女子の方は70分で塩田から番場につないだが速報では塩田がペナになっている。計センに確認しに行ったらビジュアル直後のコントロールが違う番号になっているらしい。地図が無いので本人も記憶が定かでないようだ。一応3走も4走も出走して良いとの許可をもらったので田島と宮内に伝える。

西尾から1番、2番とはとにかく慎重に行った方が良く、という情報を聞いて出て行った加藤が好タイムで帰ってくる。新宅が帰って来たがトルコの3走がいない。どうやら出走しないようだ。一方の女子 MIX はすごいことになっている。1走、2走が快走してトップ集団から遅れることわずかで3走が出て行ったらしい。4走の黒河が待機枠で待つ目の前をトップ集団の4走が出て行く。それを追いかけるというわくわくする展開となった。(実際は3走がちょっと遅れた)

結局男子は高橋、小泉と無難につなぎ(特に小泉は前3日間と比べれば良い走りだった)終了した。女子は3走の田島も塩田と同じコントロールで同じペナをしてしまうという残念な結果となってしまった。(おわり)